

第1回 国道6号 小美玉道路（仮称）検討会

1. 開催日時：令和3年3月23日（火）10：00～11：30
2. 開催場所：国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所会議室
3. 出席者：別紙のとおり
4. 挨拶 高橋副所長

皆様こんにちは。常陸河川国道事務所副所長をしております高橋でございます。本日は年度末のお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また日頃より国土交通行政に様々なご理解ご協力いただきまして、御礼を申し上げたいと思います。

検討会に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今回の検討会につきましては、今年度より実施しております構想段階の進め方の一環として、地元住民とコミュニケーションをどのように進めるかを助言いただくため、本日出席いただいております有識者の先生方、茨城県沿線市町村の行政担当の皆様方に出席いただくものでございます。

ご出席いただいている委員の皆様それぞれの視点で様々な意見やご助言をいただきながら、今後の計画段階における決定に向けて検討会を実施してまいりたいと考えておりますのでご協力をお願いしたいと考えているところでございます。

本日はよろしく願いいたします。

事務局）設立の趣意書の案でございますが、千代田石岡バイパスから国道6号までを事務所のほうで検討しておりますが、事業中箇所がいくつかある中で残っている2車線区間のうち、未だ都市計画決定がなく、茨城空港アクセス利用の需要拡大が想定される小美玉市内の区間において、構想段階を進めるために、空港のアクセスとか周辺地域の交通課題に関する検討を目的に設立したいと思っております。

検討の内容は、4項目でございます。土地利用の課題とか、課題への対応、新たな道路網の必要性・効果の検討、その他検討会が必要と認める事項で進めていきたいと考えております。この裏面にあります委員名簿にて検討会を考えてございます。

規約ですが、運用していく中で特に考えているのは今年度構想段階の検討に着手して進めていますが、この検討会を今回設立して進めていくというところでございます。

委員長を選任したいと思いますが、筑波大学の岡本先生をお願いしたいと思っております。委員の皆様、挙手をもって賛同いただけるかをお願いします。

はい、ありがとうございます。それでは本検討会の委員長を筑波大学の岡本先生をお願いしたいと思います。

岡本委員長）改めまして岡本でございます。構想段階の議論は最近あまり例が無いこともあり

ますので、是非皆さんのお力沿いをいただきながら議事進行進めていき、このプロジェクトを達成したいと思っております。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは議事を進行させていただきます。今日の議事次第の1～4のうち、まず1～3の説明を一気に進めていただきます。

事務局) お配りしております水色の帯のA4の資料になります。小美玉道路検討会資料という形でございます。3ページ目からご説明します。

この資料、今年度より着手しております構想段階の検討の中において、関東小委員会に諮った資料でございます。この小美玉道路の対象区間は先ほどご説明した2車線区間となっているところの未都計のところを空港アクセスとか需要拡大とかが想定される小美玉市内が本検討の対象区間として設定してございます。

4ページ目でございます。地域の状況におきましては首都圏第三の空港である茨城空港が立地している。田園都市として発展しておりまして、首都圏の農産物一大産地で、特に鶏卵、生乳とかが盛んな地域でございます。

5ページ目でございます。この計画を続ける上でさらに上位計画位置付けの状況がここに記されてあります。茨城県の総合計画とか各市の総合計画に主要路線の整備を促進する等、位置づけられているという状況でございます。

6ページお願いします。道路の現状の課題です。交通渋滞の状況でございます。小美玉市街地を通過する区間で交差点が連続している箇所がいくつかありまして、通過交通が多く、流入交通が約8割、2車線区間で交通量がかなり多い、約17,800台と多く、混雑度は1.44と超過している状況でございます。さらに各交差点では速度低下が長い区間で発生している状況でございます。

7ページ目お願いします。事故の状況でございます。追突事故が約8割、2箇所の交差点で死傷事故率という指標が200件を超えるような状況で、事故の対策が必要な状況となっております。

8ページ目でございます。4の現状の課題の医療連携でございます。小美玉市のこの対象区間におきましては第三次救急医療施設が無いというところでございまして、直近の茨城町方面でございますと水戸医療センター、土浦方面ですと土浦共同病院まで行くのに時間がかかってしまうという課題がございます。

9ページ目お願いします。防災という観点でございます。直轄の国道6号は緊急輸送路でございますが、南北の都心方面のアクセスが2車線区間というところがございまして、さらに平行している常磐道に関しても東日本大震災の被災している状況があります。ダブルネットワークという観点でも2車線では少し不安があるというところでございます。

さらに10ページ目、物流でございます。先ほど申しましたように農産物の産出額が小美玉市は茨城県2位ということで、先ほどお話しした主な農産物を首都圏に出荷している状況ですが、物流も阻害してしまっている状況が見受けられる状況でございます。

11ページ目。特に茨城空港アクセスというところが一つ特徴となっております。この空港は車でアクセスされる方が多いと、無料の駐車場もあるということで特に車でのアクセスが多い状況のなかでは、この空港アクセスが課題になっているという状況です。

12 ページのほうで、今まで申し上げた課題、交通に関する課題とか社会・地域経済に関する課題を整理しております。そこから期待される効果を2のような矢印の中で設定してございます。

さらに13 ページ目です。ここも模式化してございます。道路交通状況の課題、地域の将来像を考えて最終的には道路交通状況の課題を解決する検討を促進していくというのは、この検討会も位置づけている中での目標となっているところでございます。

構想段階の進めかた、ここからが今回検討会を立ち上げる上で重要になってくるところでございます。15 ページ目以降を説明させていただきます。3月9日行われました関東小委員会の中でご説明した資料でございます。構想段階の進め方とありますけれども、関東地方整備局で構想段階をどのように進めていくかという計画策定プロセスを模式化したものでございます。関東地整として進めていくなかで、まずは地元検討会を立ち上げて、ご助言をいただきながら、真ん中のピンクにあるようなステップを踏んで、さらに右側の水色の枠の中にあります地元住民の方々とのコミュニケーションのプロセスをどのように進めていくかというところを模式化してございます。

この関東地整の進め方にならしまして、16 ページにあります小美玉道路として構想段階をどのようにして進めていくかというものを模式化したものでございます。基本的には12 ページの関東地方整備局のものと同じ流れになりますけれども、もう少し詳しく書いてございますが、まず構想段階に着手して、緑色の中の地元検討会にご助言を図りながらこのステップごとに進めていくという考え方は同じでございます。

さらに黄色枠の住民の皆様とどのようにコミュニケーションをしていくかというところを、もう少し細かく書いてございます。まず現況ですけれども、構想段階の検討に着手するということに関しましては、事務所のホームページ等ですでに構想段階の検討に着手していますとお知らせをしている状況でございます。この検討会、今日、お諮りさせていただきます構想段階の進め方にご了解いただいたところで、明日以降、この意見聴取を開始しますと、皆様のご意見くださいというような形で進めていきたいと考えてございます。

さらに各段階のステップでございますが、もう少し細かく、先ほどの交通の課題ですとか、道路整備の要望ですとかご意見とかを把握するために意見聴取の方法としましては、ホームページとか、オープンハウス、アンケート、ワークショップ、パンフレット、広報誌というところで、特にこの後細かく説明いたしますが、オープンハウスをまず開催して地域の皆様が思っていることを、ご意見を拾い上げていきたいと考えてございます。

さらにいろいろご意見が出てくる中で、その先はいくつかのルートを決めていくわけですが、ワークショップを開催させていただきまして具体的にルート設定に入っていきたいと考えてございます。さらに同じような話で複数案ルート検討していった中で、情報提供を同じようにしていくという流れです。最後には皆様のご意見踏まえた中で概略計画をとりまとめ、関東小委員会に諮るという流れになります。

次のページでございます。検討会の位置づけですとか体制を模式化したものです。まず計画決定権者、まとめるのは国土交通省がまとめるものでございますが、そこに関して地元検討会を立ち上げ、プロジェクト検討していく事務局として国土交通省と茨城県で、地元検討会は皆様からご助言をいただきながら、概略計画をまとめるというのが最終目標となっております。

その中で地元的一般市民の方などの意見を把握し、さらに関連の計画がございますけれども、それぞれの町作り計画ですとかも一緒になって概略計画に盛り込んで、概略計画を基にそれぞれの町作り計画を作っていただくという流れになってございます。

具体的な地元とのコミュニケーション方法ということで、19 ページ以降に記載しております。先ほどお話しさせていただきましたコミュニケーションの内容でございます。

ホームページ上から Web アンケート、オープンハウス、ワークショップ、関連企業へのヒアリングということで、直接対話する方式はオープンハウスとかワークショップとかヒアリングになりますけれども、より地元の広い意見を聞くということで直接対話する方式を重視したいと考えています。ただアンケートをとるという方式では無く、なるべく地元の方々とのふれあいの中いろいろな言葉を拾い上げていきたいというのが考え方でございます。

20 ページにコミュニケーションの具体的な方法が記載してございます。まだ調整中のところもございしますが、オープンハウスを記載している箇所なるべく集客があるような施設とか、あるいは公共施設でオープンハウスを開催したいと考えています。

ワークショップはこれから検討を進めてまいります、住民を対象に地域の公民館等でそれぞれ座談会形式でのワークショップを開催したいと思っております。

それと平行して企業へのヒアリングを実施するという流れを考えてございます。

21 ページでございますが、オープンハウス、ワークショップのイメージになります。この写真のような対話方式を想定してございます。コロナの影響もございまして今後の実施の方向については検討しないといけないと思っておりますが、基本的にはこのような対話方式、ワークショップに関してもこのような座談会形式のワークショップを開催したいと考えてございます。

22 ページ以降はまだ案の段階ですけれども、オープンハウスのチラシ・アンケートでございます。23 ページに関しましてもワークショップのチラシ、今案の段階でございます。一般公募するということは、ワークショップに関しては公募するということを想定しておりますのでまずは住民の方にご参加いただくようなアクションをおこして、参加の登録をいただいて開催するという流れになるかと思っております。

24 ページは企業へのヒアリングでございます。関連する企業・団体様、トラック協会、タクシー協会とかございますので、そこは個別にお伺いしてヒアリングしたいと思っております。まずはアンケートをとってご回答いただいたところに補足のヒアリングをするという流れを想定してございます。

25 ページ 26 ページに関しましては、まだ本当に案の段階ですけれどもこのような広報誌・ニューズレターを配布させていただきまして、広く住民の皆様にこんなことを進めているんだなというようなことをご理解いただいて、先ほどのオープンハウスとかワークショップにご参加いただくような呼びかけをしていきたいと考えてございます。

構想段階の進め方は今日皆さんにご助言いただきたいところでございますのでお願いしたいと思っております。

検討会の資料の説明は以上となります。

岡本委員長）最初いくつか議論を絞っておいた方がいいですかね。

進め方という部分で確認しておきたいのですけれども、今日は最初ではありますけれども、

計画の進め方、概略こんな段取りで進みますよというところ。その後公開もしていくし、広く県民の皆さん、市民の皆さんに見ていただく検討の進め方ということになります。

今はこのステップですということなので、今日はコミュニケーションとして関心ある方々に情報提供する内容を決めてしましましょう、あるいは原案を作ってしまうということだと思います。それはまた意見把握ということでフィードバックして軌道修正するということでもありますので、今我々は検討会の進め方と目的を決定するための議論を進めていく。

進め方に示されている内容は、まずは目的を明確にしましょう、そして複数案評価資料を決めましょう、その複数案に対して、こんな評価結果、こういうことになりますよ、付帯情報、こう言うことには気をつけなければいけないですよ、という議論をして、そして概略計画というものを最終的には決めるということ。その概略計画というのは、どこかに定義書いてあったでしょうか？概略計画というのはどこまで決めておけばいいのかということですけど。

事務局) 概略計画が何かという定義は今回の資料には掲載していません。ただ複数案のルート案を皆さんにご提示させていただき結果で、ある程度のルート帯と呼ばれる少し広い幅、道路の幅より少し広い幅、例えば1 km位の幅をもった、ルート帯と呼ばれるようなルートのラインを概略計画と認識してございます。今回の資料ではそこまで細かく載ってはいません。

岡本委員長) 国土交通省道路局という書類がありまして、平成25年7月に公開されている「構想段階における道路計画策定プロセスガイドライン」、この中にはですね、概略計画の起終点、概略の延長、今言われた構想ルート帯、明確には決めないけれども、ここここは結ぶというようなこと、そこに連結する道路、そして主たる構造、その他必要な事項というのが概略計画ということでございます。

我々の検討会というのは、概略計画が決定するまでが任務で、その先の詳細などこの位置にどのような、どういう構造で作るといような、幅員は何mにするとかという話は次の段階ということ。我々はこういう表現がいかかわかりませんが、ざっくりとしたこと、あるいは道路計画をするかしないかを含めて議論するということ。というのが全体の流れであります。

今この2段階目に来ていると思っていいわけですね、すでに計画検討は着手しました。はたして十分か十分でないかという、個人的にはホームページだけでは足りないと思うところは、ありますけれども、今回ちょうどこの機会ですので、そういう検討が始まりましたという事も併せて広く市民・県民にご周知いただくのにチャンスだなと思います。

これからはホームページにニューズレター・オープンハウス・ワークショップ、あるいはWebアンケート、ヒアリングなどで意見を伺っていくということ。です。

平田委員) 概略計画の定義について、確かに、概略計画だとか、構想段階だとか言われたときに、いきなり意見くれと言われたときには、概略計画でどこまで決めるのか、一般市民にはよくわからないと思う。初めて聞く方にその辺がわかりやすく、この後に続く計画段階についても一緒に示すとわかりやすくなる。詳細なルートはそっちで決めますよ、そのための前段階の調査ですよ、と、なるべくわかりやすい言葉とイメージで示せたらいいと思います。

どちらかという早く作ってほしいというような意見が多いと想像するけれども、一方でただ意見くださいと言うと早く作ってくれという意見ばかりになってしまう可能性もある、伝え方を間違ってしまうと、ですね。

こういう構想段階調査をやるねらいの一つは、より良い計画を、市民のニーズをなるべく拾って、なるべく市民の納得感を高く作る、と言うことが設置目的に入っていましたけれども、そういうこともあって、道路計画によってはすべていいことばかりではない、デメリットですとか、町づくりの観点とか、小美玉市、石岡市、茨城町とか沿線自治体にとっては重要になってくると思う。

単に道路計画に意見くださいとか言うと、想定もしていないような影響を受ける人とか、間接的に町づくりに関わってくるとか、そういうところの意見を言いたい人がなかなか見つからなくて、仮に見つかっても意見を言うチャンスが無かったり、僕なんか茨城県7~8年目ですけど、道路計画とか町づくりに関わっているとあまりそういう機会が無いなという印象がある。

そういう、行政の計画に対してあまりものを言わなかったとか、言えなかった人に対しても積極的に情報を発信して、幅広く何でもいいから意見ください、というメッセージを、はじめにどれだけ多くの人に伝えられるかというのがまず重要なと思いました。

定義というのも重要だし、その伝え方というのが、どうやったら伝わるのかというのがわからないですが、沿線自治体の方々は、市民の皆様に近い関係という印象がある。そういうチャンネルをフルに生かしながら、国と県とも連携してこういう情報を発信して意見を集める取り組みにつなげていただければと思います。

石川委員) 国道6号は、東海拡幅が事業化、それから牛久土浦バイパスなど進んで来ておりますが、関東で見ると茨城県内は4車線化率が非常に低いという状況です。この構想段階ということですが、時間軸をどのように考えているのか、概略計画を1~2年かけるのかを教えてください。

事務局) 確かに一般の方に通用する言葉・表現を検討したいと思っています。

時間軸に関しましては、R2年度から計画段階に着手しているという状況でございますが、コロナの状況もあり、なかなか意見聴取を進められない中で、ここで地元検討会を開催いただいて、この進め方に関してご助言いただきながら、これでいこうという形が決まればここからスピード感を持って進めていきたいと思っています。

大きく2回、地元の住民の皆様とのやりとりが入ってくる中で、オープンハウスとワークショップをどのように進めるかというのが一番の課題になるかと思います。なるべく今年の秋頃にはまとめていきたいという思惑ですが、あまり設定してしまうと、皆様方とのコミュニケーションをおろそかにするのも、と思いますので、思惑としては持っているという状況でございます。

岡本委員長) 僕もそうですけれども、思いとしては早く議論したいということだと思います。ただ丁寧に議論することが最優先です。情報提供をいい加減にするのではなく、どういう中身で情報提供するか、それに対しての意見をちゃんと受けとめる方法を準備しておく。

たとえばオープンハウスはいつから開設されますか。

事務局) オープンハウス・ワークショップについては準備に時間を要するというご意見もございまして、まずポータルサイトを開設して情報を発信していく、さらに最初のステップとして Web アンケートを、今は 6 月末位の期間を設けて、最初のステップの課題・目的に関するご意見を募集しようと、Web アンケートだけでは無くその後速やかにニュースレターなどを地元で配布し、自治体の回覧等々で周知をしつつ、ご意見を募集していきたいと考えてございます。

Web アンケートの期間の中か、それに遅れる形で準備でき次第、オープンハウスとワークショップを開催していきたいと考えてございます。オープンハウスの場所とか、コロナとかありますけれども、場所とかも踏まえながら確定次第ポータルサイトの中で周知をさせていただきたいと考えてございます。:

安委員) コミュニケーション方法で、企業ヒアリングをぜひやっていただきたいと考えております。中身見させていただいて、アンケートを行うということで、統計調査みたいな感じになっていますが、実際に企業にお話を聞くという補足ヒアリングというのが一番大事になってくると思います。

基本的にどういった使い方をするのか、どういうふうに期待するのか、例えば国道 6 号の整備に関して皆さんに意見いただけるようなそういった機会をもっていいただければと期待しているところでございます。

この企業とのヒアリング、どういったやり方、現時点ではそこまで決まっていなくても、方向性としてもうちょっとお聞かせいただければと思います。

事務局) 詳細はこれから検討していくけれども、基本的な流れとして、まずは幅広にいろいろな企業、具体的には 20 ページ目でございます④番、企業等ヒアリングの中の項目に該当する団体様、まずは幅広くアンケートを配布させていただいて、細かく興味を持ってご回答いただけるような団体、さらに補足のヒアリングをしたい、と思っているところが今のところの考え方で

安委員) ありがとうございます。

高橋副所長) いろいろご意見ありがとうございます。

どういう方から伺うかとか、どういうふうに聞くのが良いのか、どういうふうに情報をだしていくのが良いのか、まさに地元の方々、地元精通しているの方々から意見を聞きなさいよ、というのが昨今の国交省の取り組みとしてのトレンドでございまして、今回皆様にお集まりいただいでご議論いただくというのが本当に大きい目的ということになっております。

この場で具体的に、どこそこには聞いた方がよいよとか、こういう打ち出し方あるよとか、そういうところを是非いろいろ伺いながら進めさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

金谷委員) 先ほどご説明の中でコミュニケーションの方法で様々な手法がご紹介されましたけれども、オープンハウスを小美玉市内で計画されているところ2カ所あるが、そのうちの1カ所の空きテナントが入店することが決まったみたいで、そこは再検討させていただきたい。

概略計画のとりまとめの目安の時期が秋頃というご回答だったと思いますが、私共、関連計画の位置付けのところでは小美玉市の建設計画というものがあるが、合併の時の計画でございまして、市の総合計画でどのような位置づけか確認してこなかったが、幸い令和3年度に見直しの時期になっておりまして、合わせて都市計画のマスタープランも見直しの作業に入っているところですので、できるだけ早く議論とありましたけれども、概略計画の決定をいただければ明確に位置づけをしていきたいというところがございまして。よろしくお願ひしたいと思ひます。

それからお話の中にもありましたけれども、この道路が整備・事業化されることによって、今小美玉市内でも主要な幹線道路整備しているけれども、沿線の土地利用、町作りについて非常に、私も議会の議員からご質問あつたりしているんで、市としてはその辺も含めて早め早めに検討していきたいという思ひがあります。

その辺できるだけ早めにご決定いただけるようなスケジュールで進めていただければと思ひております。以上ですよろしくお願ひします。

事務局) なるべく早く進めていきたいと思ひております。オープンハウスの場所につきましては、今のところ花木センターの空き店舗という話いただいておりますが、集客施設は、小美玉市内では、道の駅そららや、花木センターが一番集客があると伺っておりますので、空き店舗にかかわらず外の駐車場でやるとか、開催方法は検討したいと思ひております。

また空港も再開されれば空港そのもので行うとか、場所についてもさらに検討を進めていきたいと思ひております。

そういう意味でも今回オープンハウスの日程が決まらないというのも場所が決まらないという意味での調整中ということもあります。

さらにワークショップにつきましても、地元の皆様からご推薦いただくとか、一般公募したメンバーでとか、人選についてもご相談させていただきたいと思ひておりますのでご協力よろしくお願ひします。

平田委員) 一番はじめの段階だと、計画の進め方、課題・目的の決定とここが重要だと思うんですけども、小美玉道路の必要性、つまり本当にこれ作る必要性あるの?とか、過去の例などを見ると散々検討してルート検討をやつたあとに、そもそもこれ必要あるのと、はじめに議論が戻ってしまうケースもある。

レベルの差はあるけれども、時々そのようなことを目の当りにする。そうならないために、最初の計画の進め方、課題・目的の決定の部分を丁寧にやるのが、結構重要ななと思ひている。なんとなく盲目的にこれは必要だとなつてしまうと、ますます本来くみ取るべき少数派の意見が出てこない、今日の話聞いているとますますそう思ってしまうこともあつた。

そのために必要性、課題、目的を問ひかけるときに、企業のアンケートの結果とか、今日の事務局の説明にあつた現状の課題がもちろんあつていいのですけれども、そういう素材をどれくらい事前に出せるかも重要だと思う。

さっきの企業アンケートも確かに必要ですが、茨城県内で、工業団地とか結構やっていますよね、その車が結構国道 6 号になだれ込んでくるのでは無いか、将来大型車が沿線自治体のど真ん中をなだれ込んできたらやはり市民にとってはきついと思いますよね。

そういった将来の情報も、具体的にわからないにしても、市民の皆さんにインプットすると、ちょっと考えないといけないという意見が出てくるのではないかと、その辺はスピーディにやりつつも工夫は一定程度必要かなと思います。

小美玉市が、今、丁度総合計画を更新する段階ということで、地域の町づくりにこの小美玉道路が結構大きなインパクトがある。そこで先ほどの話ですと、こちらで決まったことを前提に町作りを進めるというイメージ、先にこっちが決まって、それを条件に進めると聞いたけれど、そうじゃなくて、町づくりから見てこっちの道路をこう作ってほしいというのも積極的に言うのもいいと思う。

その辺も同時平行でどう進めるかはわからないけれども、将来の町づくりを同時に計画検討が進むのであれば、この概略計画と平行してうまく小美玉市の地域計画検討で集めた意見をこっちの構想段階にインプットするというのが市民にとってはいいという気はしました。いかがでしょうか？

事務局) 今最後の小美玉市の総合計画の関連づけという話をいただいておりますが、イメージ的には 17 ページにありますような再度概略計画を決めるときに、関連計画なども、特に町づくりとかも同時並行的に位置付けていただければと思っております。

特に、どれだけ課題があって、有効なものを作れるかという中で、課題の 6 項目の位置付けというのは、最終的に計画段階評価として評価いただくときの一つの指標になり得るものの柱としてたててございまして、もちろんそのほかの意見も吸い上げるのですが、最終的な計画段階評価としてまとめる指標を課題としてあげさせていただいている状況です。

様々な意見があるだろうというところで、進め方の中にもありますが、複数案を提示する次のステップです、幅広い構想ルート帯を何案か示すのですが、複数案提示する際、整備をしないという意見も拾い上げていくということがございます。整備をすればしたら何案かこういうルート、しない場合もあるという評価をしていきたいと思っております。

和田委員) ご説明いただいた 6 項目ですけれども、課題がいきなりあげられているという印象をもちまして、本来この国道 6 号がどういう役割を担うべきかという話が無いですよね。なので、一般の人に聞いたときには、便利な幹線道路、たとえば本来、空港アクセス・物流・防災みたいな広域連携、重要な役割を担うべきところですよ、と先にインプットしたほうがいようにちょっと思いました。

その副作用として交通渋滞ですとか交通事故が起こって本来の機能を果たせないとか、そういう状況になっていると自分は認識しているので。なので 1、2 に交通渋滞・交通事故を持ってくるのはちょっと、すごくローカルな意見を拾うだけになってしまわないかという心配があります。そういう意味で本来あるべき姿、3～6 がまず役割として求められますと、そこが 1～2 くらいからだめですと、そういう伝え方をした方がもうちょっと全体像をつかんでもらえるのかなと思います。

事務局) 最終的に計画段階評価の指標もあり、そのようなまとめ方になっております。本来の役割を示すような検討をさせていただきます。

平田委員) 計画段階評価でこの六つの指標があるからこれでということ、ことさら言う必要も無いし、必要であったら計画段階評価でも構想段階でも、これら以外の目的も重要だよねと、地域として重要な指標が出てくるかもしれない。

そこはあまり予断を持たず、はじめに決めつけなくてもいいかなと思いますし、ローカルな検討会なのでローカルな意見を、皆さん生活している中でのご意見を集めることも重要だと思います。確かに国道 6 号って広域的な幹線なので、ここに書いてある課題は重要だと思うのですが、地域の活性化みたいな話も、国道 6 号という大幹線が石岡市とか小美玉市とか茨城町とかのど真ん中を通っていることがいい面もあれば、沿線に張り付いている人たちの生活にとって本当にそこに大型車がいっぱい走って、交通量が増えて生活の質は本当に高いの?みたいな、これから次の 50 年の町を作っていくときの大チャンスになると思うんですけども、その地域のためにこの道路が何か役割があるというような、この六つだけだと確かに見えないなという気がする。

そこを積極的に出していいのか僕もわからないけれども、そういう意見を期待していると書いてあり、そういう目的もこの構想段階では七つ目に出ても悪くないかなと思いますし、それによって意見も出てくる。繰り返しになりますけど、出てくるような気はします。

石岡市では、千代田石岡バイパスは市街地かなり迂回していますよね。もともと用地がそんなにない、町中に流入する通過交通を町の外に出す、町中の生活の質をあげる効果あるのですよね。

だからそういう前例を次の小美玉市とか茨城町でも生かしてもらえればという気はしました。

事務局) 様々な意見をもらいたいという思いの中で、先ほどおっしゃっていただいたように、役割を示して、課題を先に示すようなやり方でないほうがもしかしたら良いのかなというのがありますので、また相談させていただけたらと思います。

考え方としては、少し課題を示した方が意見が出やすいのかなというところも一つの側面があったというところでご理解いただければと思います。幅広くいろいろな意見をいただきたいという思いがありますので、このような進め方をしていきたいと思っております。先程お話をさせていただいたご意見の聞き方もあるのですが、オープンハウス・ワークショップの、対話の中で様々な意見を拾い上げていくのが、思いとしてはありますので、そこを重視していろんな意見をいただきたいなと思っております。

岡本委員長) 国道 6 号はやはり幹線ですよ、一桁の番号ですから。その意味で言うと、本来であれば都市間を移動する交通に使ってもらうことが第 1 番目の目的だと思います。今の国道 6 号はキャパシティが少ないところに大量のトラックが走ってしまって、渋滞をいたるところで起こしている。

そういう区間が続いてしまっているの、それを改善しようということで、この区間だけで

はなくて全県的に改良を今進めているということです。

考え方として、本来幹線道路で処理すべき交通というものと、本来生活のための足の短いトリップが使うべき道というのが今混在している状況だということを、メカニズム的に伝えていただいた方がいいのではと思います。

それと拝見していて、交通事故のところは国道6号平均だと50.8という数字に対してこの区間では200を超えています、これわかりやすいですけど、お隣の交通量17,800台走っている、これ一般の人に1日17,800台って言われても、ちょっとぴんと来ない。

写真で渋滞しています、という感覚はあるけれど、比較の数字があった方がいいのか、あるいは平均速度で表現してあげる方がいいのか、専門的に言うとぱっぱと分かっちゃうけれど、そういう情報を持ってない方々がどう思うかなというところを是非丁寧に検討していただけたらと思います。

多分今日いらっしゃっている市町村の方以外の自治体でも国道6号は都市計画マスタープランの中では一次の緊急輸送道路に指定されていると思うのです。

これからいろんなところで拡幅しているけれども、どっかで途絶してしまうというか、キャパシティが中途半端になってしまう状況が許されるのかどうかという問題も孕んでいます。今現道なんかは、水に浸かってしまうという危険があるようなところは無いんですか？

高橋副所長)そこはあまり無いですね。津波想定にかかっているのが北の方にあったりはしますけど、その程度です。

岡本委員長)都市計画マスタープラン作るときとか、立地適正化計画のお手伝いしている時、居住誘導地域なのに水に浸かってしまう計画は作れないです。昨日国道6号走ったときに、こんな低いところあるのだと、大丈夫かなとちょっと確認してこなかったのですけれども、小美玉市との市境にちょっとくぼんだところがあって心配になりました。

国道6号は命綱になってしまいますので、水に浸からないことが大事かなと思っています。特に一昨年茨城県内、全国いろんなところで、痛い思いをしています、そういったことも検討いただければと思います。

一応秋までをめどにということで、概略計画の示されたステップで議論を進めていく。着実にお手元に届くように、住民の方々にはお手元に届く、あるいは意見を聴取するオープンハウス・ワークショップ、これを着実に進めていただくというふうに思います。その点についてはどなたからも異論は無かったということ認識しておりますので、この進め方でよろしいのかなと思います。

ただ僕は一つだけ懸念は、ある自治体なんかで公共交通マップを作って全戸配布しました。実はその全戸配布の中に集合住宅が入ってないケースがいくつかの自治体さんであったんですね。要は自治会に入っていない。そういう事だろうと思います。割とそういう集合住宅に住んでいらっしゃる方、年齢層の若い方、働き盛りの方が多いかなと思いますので、そこを自治体の方々と是非漏らさないように工夫してもらえればと思います。

事務局)今の全戸配布に関しましては、当初は自治回覧等も検討はしていたけれども、最近では自

治会に入らないという方もいらっしゃるということも伺っておりますので、全戸に配布するように考えていきたいと思えます。

さらに国道 6 号の使い方にもよりますが、パーキングエリアとか道の駅ですとか、少し広い範囲にニューズレターを置かせていただいて周知していきたいと考えております。

鶴井委員) これからオープンハウスを実施していくということで、今もどんどんバイパス建設中でありまして、今回こういったワークショップをいい機会と捉えまして、将来的にそれを活用して石岡市の町づくりにも、今までの計画を整理しながらそういったもので将来的に幹線道路や地域の都市計画といったものも、見直し検討というようなこともやらなければいけないと今日は感じましたので、まずはワークショップに向けて、多分石岡市で、地域計画でそういったものがあるのという一般の方の興味も出てくるのかなといったことで、できれば今までの計画を市民の方とそういう将来の構想について意見を聞ける機会と捉えながら一緒に進めさせていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

事務局) ぜひご協力いただきながら、こういった進め方も実際に皆様も一緒になって勉強していくというやり方も、どのようなやり方が一番いいのかを模索しながらやっていきたいと思えますので、是非ご協力いただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

平田委員) 今の石岡市の話、すごくいいなと思えました。市民の人は公共計画とか行政の計画にほとんど関心が無いのですよね、この 10 年 20 年。

その結果何やっても、作ったものの有効活用もしてくれないし、何かあっても協力してくれない。せっかくこの道路の構想段階・概略計画をやるので何かこのオープンハウスの時に、石岡市の地域作りの情報のインプットというの、本当はやってはいけないのかもしれないけれど、そういうのも積極的に市としてやるというのは長期的に行政と市民の連携を作るきっかけになるという気がしました。是非ここはチャレンジしていただけるとありがたいなと思えます。

岡本委員長) アンケートが 4 月 5 日から始まる割には、アンケートのたたき台が無かったなというのと、もう一つは進め方の中に Web アンケートが 3 段階目には無いのですよね、それ入れない意図は何かあるのかな?と思えました。

要は一番下の方になるとニューズレター、オープンハウス、ホームページ、になってしまう。ワークショップは無くてもいいのかもしれないけれど、もう少し意見を吸い込むのは用意しておいた方が良くないかもしれない。Web アンケートでは無いかもしれない、よく我々の大学などでも入試について質問がありますという、アクセス欄を作っていますよね、ご意見欄でもいいと思えますよ。そういう事は用意していただきたいと思えます。

事務局) アンケートについては、ポータルサイトのホームページの中にリンクするとか、そういった形で考えてございます。今おっしゃっていただいたように 3 ステップ目、4 段階目からの話ですが、確かにアンケートという形ではないですが、ご意見という形で、常にどんな形でも、と考えております。

岡本委員長) ポータルサイトをたち上がってすぐの Web アンケートというのは何を聞くのですか？

事務局) まさにこのご意見を聞かせてくださいと言っている課題を想定してございます。計画を進めるに当たって、何が課題でどういう目的で、道路作るとしたらどういう目的で作っていききたいか、素材をなるべく集めたいという中で、先程来お話をさせていただいている、こういう課題を設定しない方がいいというご意見もありますので、少し目的、国道6号のあり方、本来の姿をお示ししながら、最終的には課題というか、どういうふうに使いつらいと思っているとか、渋滞していると思われているのか、ただ混雑していると思われているのか、人によって感覚的なものもありますので、もうちょっと細かくしていきたいと思います。

お話いただいたように渋滞に対してわかりづらいとかありますので、混雑度を示して6号平均ですとか県平均ですとか、もう少し工夫させていただいて、このアンケートをする側が見やすく、少し改良していきたいと思っています。

岡本委員長) そもそも論として、道路なんかいらぬという人も書けるような自由な。

事務局) もちろんです。そういう意見ももらっておかないと今後ルートを絞っていく中でも、そういう意見はなぜそう思われているのかということも掘り下げていって、貴重な意見だと思いますのでむしろ重視していきたいと思っています。

岡本委員長) 繰り返しになりますけれど、このプロセス、対県民、対住民、対利用者、こういう方々の意見を十分吸い上げて検討する、検討する土俵に乗せるということ、この段階から始める。道を決めるわけでは無くて、概略までしか決めないということでの検討委員会がまさに今日始まったというふうに思います。

引き続き事務所の方がこれから大変だなと思います。今、意見を吸い上げておくことが将来の事業に良いものが作れるということに、良いものに反映させることができるということだと思います。

次の検討会はいつくらいですか。

事務局) 議事のその他について説明させていただきます。次回検討会につきまして、第1回意見聴取、住民との皆様とのコミュニケーションを終えた結果をお知らせしたいと考えておりますので、概ね7月頃の開催を予定したいと今考えております。

Web アンケート自体も6月末で締め切るなのでその結果もまとめられればと、その辺のご報告を兼ねた検討会ということで7月頃の開催を予定したいと思っています。以上です。

岡本委員長) 秋と言っていたので、7月ではちょっと遅いような気がしますけれど、この辺はいかがですか？

事務局) 秋というのはありますけれども、事務局内での目標が全く無いという訳ではないというところでの秋ということでございます。アンケートについてまず課題とか目的を決定するために必要となる意見を6月末まで募集する。そこに向けてオープンハウス・ワークショップもやっていくとなると、やはり7月くらい、もしかするともう少し遅れるかもしれない。丁寧な意見の聞き取りをする中で、取りまとめた結果について次回ご意見をいただくという形で進めさせていただきたいと思っております。

先ほど委員長からご指摘ありましたアンケートの中身について、今日ご用意できなくて申し訳なかったのですが、再度検討会というところではなくてメール等で事前に情報提供、またはオープンハウスとかワークショップの進め方についても適宜情報提供させていただきながら、こういう形で意見を募集するというところについても、また情報、その段階でもご意見いただければ助かりますので、そういった中で意見をいろいろ集めさせていただきましてその結果、再度次回ご議論できればと考えております。よろしく申し上げます。

平田委員) アンケートは4月から6月で結構長く設定していますが、ずっと受け付けているということですか？

事務局) ポータルサイトから外部にいくような形で、常にその期間中はたとえばオープンハウスに来られた方がその後家に帰ってからやっぱり意見言いたいなという場合も Web アンケートで言えるという形で、その Web アンケート自体は期間を長くもうけたほうが良いかなという思いで設定させていただきました。

平田委員) 随時募集という事ですね。ニューズレターのタイミングはどんな感じですか？

事務局) ニューズレターは、4月くらいには配布したいと考えております。そこも配布する前に皆さんに一度案をお示しした後に配布したいと考えております。

平田委員) 第1号ニューズレターは今日出てきたような情報ですか。

事務局) 今日のご意見を踏まえて修正をさせていただいて最終版を作って、配布する前にご提示したいと、その段階でご意見があればいただきたいと考えてございます。

平田委員) 何を思ったかという、通常のプロセスと比べると時間がタイトなので、場合によっては、この途中段階のアンケート結果をフィードバックするというのもよいかと思いました。大変かもしれませんが、たとえばニューズレター第2号は5月までにいただいた意見の概要みたいなものを、Web で載せるだけでも良いかもしれませんが、配布するのは大変ですからね、電子版を見たいな。

途中経過の意見を見ると、みんなが言っている意見を見ると言いやすかったりするので、そっちに引っ張られるというのもありますけれど、大変ではない程度のやり方でもいいかなと思いました。

事務局) 4月から開始出来たとして、集約の結果をどのくらいでまとめられるかというのを皆さんに情報提供させていただきつつ、そういうことであればこういうふうにニューズレター第2号、というように、ご意見いただきながら示させていただき、検討会の外になってしまいますけど、いろいろ意見いただけると大変助かります。よろしくお願いします。

岡本委員長) ホームページというのはどうしても受け手が自ら手を伸ばさないと情報は出ないので、是非こういうのがあるのね、というのを折に触れ、住民の方々の目につくようにしていただければと思います。

この事務所で検討していただいている移動性安全性向上委員会でフェイスブックを持っているはずなので、そこで紹介していただいてもいいし、あらゆる宣伝をしていただいて、広く周知していただければと思います。

この議事録は公開しますか？

事務局) 議事録については、ホームページに公表させていただければと思います。その内容についても事前に公表する前に確認させていただければと思います。よろしくお願いします。

岡本委員長) それでは本日の議論は終わりにしたいと思います。よろしいですかね。皆さん本当に多数ご意見いただきましてありがとうございました。

事務局) 議事録につきましては、委員長と委員の皆様にご確認をいただいた上でホームページに公表させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

これまで、進め方については関東小委員会のほうで議論いただきましたけれども、地元の意見を聞いて、それをとりまとめるというのはこの検討会のほうで進めさせていただけたらと思っております。

検討会以外の場でいろいろアンケートをはじめ情報提供させていただきながら、それに対するアドバイスをいただきながら丁寧に進められればと思っておりますので、よろしくお願いします。

本日は本当にありがとうございました、これをもちまして第1回小美玉道路検討会を閉会とさせていただきます。